



# ガイドブックの作成について

## [作成過程]

### ◇関係者への意見聴取

- 自治体、施設運営者、各種団体に対して、ヒアリングを実施し、スポーツ施設の課題を抽出（8団体に実施）

### ◇取組事例調査

- インターネットや既往文献、ヒアリング等によって、取組事例を抽出
- 約15事例程度、現地調査を実施

### ◇スポーツ施設におけるUD化 におけた配慮事項

- ✓UD化の課題を整理
- ✓その課題の対応策となる取組を整理
- ✓ハード・ソフト面の取組を整理し、実践的な手法を提示

ガイドブック  
作成

### ◇検討委員会の開催

学識有識者/スポーツ団体/当事者団体/民間事業者/地方自治体等 14名

第1回7/27

事業の背景  
目的共有等

第2回8/31

UD化の現状  
課題の整理

第3回11/22

UD化の方向性や  
対応策の検討

第4回2/15

ガイドブック  
(素案)

### ◇オンラインセミナーの開催

特別企画 3/9

第1回 1/31

みんなにとって使いやすい！  
スポーツ施設のユニバーサルデザイン化って？

ONLINE TALK SESSION

みんなにとって使いやすい！  
スポーツ施設のユニバーサルデザイン化って？ part2

## [検討委員会のメンバー]

大石 悦子	セントラルスポーツ株式会社 執行役員 監査室長
金山 千広◎	立命館大学 産業社会学部 スポーツ社会専攻 教授
上條 浩	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団常務理事 障害者スポーツ・文化センター 横浜ラポール 館長
齊藤 陽睦	東京都 生活文化スポーツ局 スポーツ総合推進部 パラスポーツ担当部長
佐藤 聡	特定非営利活動法人DPI日本会議 事務局長
鈴木 順	公益社団法人日本プロサッカーリーグ 社会連携部長
平野 祐子	主婦連合会 副会長
古田 安人	株式会社梓設計 アーキテクト部門 スポーツ・エンターテインメントドメイン エグゼクティブダイレクター シニアアーキテクト

星加 良司	東京大学大学院 教育学研究科附属 バリアフリー教育開発研究センター教授
三上 真二	公益財団法人日本パラスポーツ協会 スポーツ推進部長
水原 由明◎	公益財団法人日本スポーツ施設協会常務理事兼事務局長
山本 恵理	公益財団法人日本財団パラスポーツサポートセンター推進戦略部ディレクター
横尾 良笑	特定非営利活動法人実利用者研究機構 理事長
來田 享子	中京大学スポーツ科学部 教授

## なぜ、ユニバーサルデザインの考え方が必要なのか？

スポーツ基本法 第12条の理念に基づき

性別、年齢、障害の有無等に関係なく、地域において誰もがスポーツ施設でスポーツをすることができる環境を整備していくことが求められている

(第3期スポーツ基本計画を踏まえて)

国民がスポーツに親しむうえで不可欠となる

「ハード（場づくり）」 「ソフト（環境の構築）」 「人材」

地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」の実現

公立スポーツ施設について、ガイドラインや先進事例の情報提供等を通じて、地方公共団体が行う老朽化対策や再整備等に関する個別施設計画の策定を促進。

【今後の施策目標】

性別、年齢、能力等にかかわらず誰もがスポーツを行いやすくするユニバーサルデザイン化の推進等により、安全で持続可能な地域スポーツ環境の量的・質的充実を図る。

# バリアフリーからユニバーサルデザインへ

「誰もが気軽にスポーツに親しむことができる場づくりとは？」

社会的な障壁を  
なくすこと

分離的対応  
違いを認める

適応的  
積極的対応

違いに価値を置く  
バリアフリー  
「高齢者・障害者」

バリアフリー：平均的な人を対象とした標準設計によって生じる障壁を解消するといった主に事後的に特別なデザインを施すといった考え方

使いやすさを  
重視したデザイン

統合的対応  
違いをいかにす

戦略的  
ともに楽しむ

多様性を機能させる  
ユニバーサルデザイン  
「すべての人」

ユニバーサルデザイン：はじめから、可能な限り、多様な人の利用を考慮し、どのようになれば対応できるのか？といった発想をもつことが大切

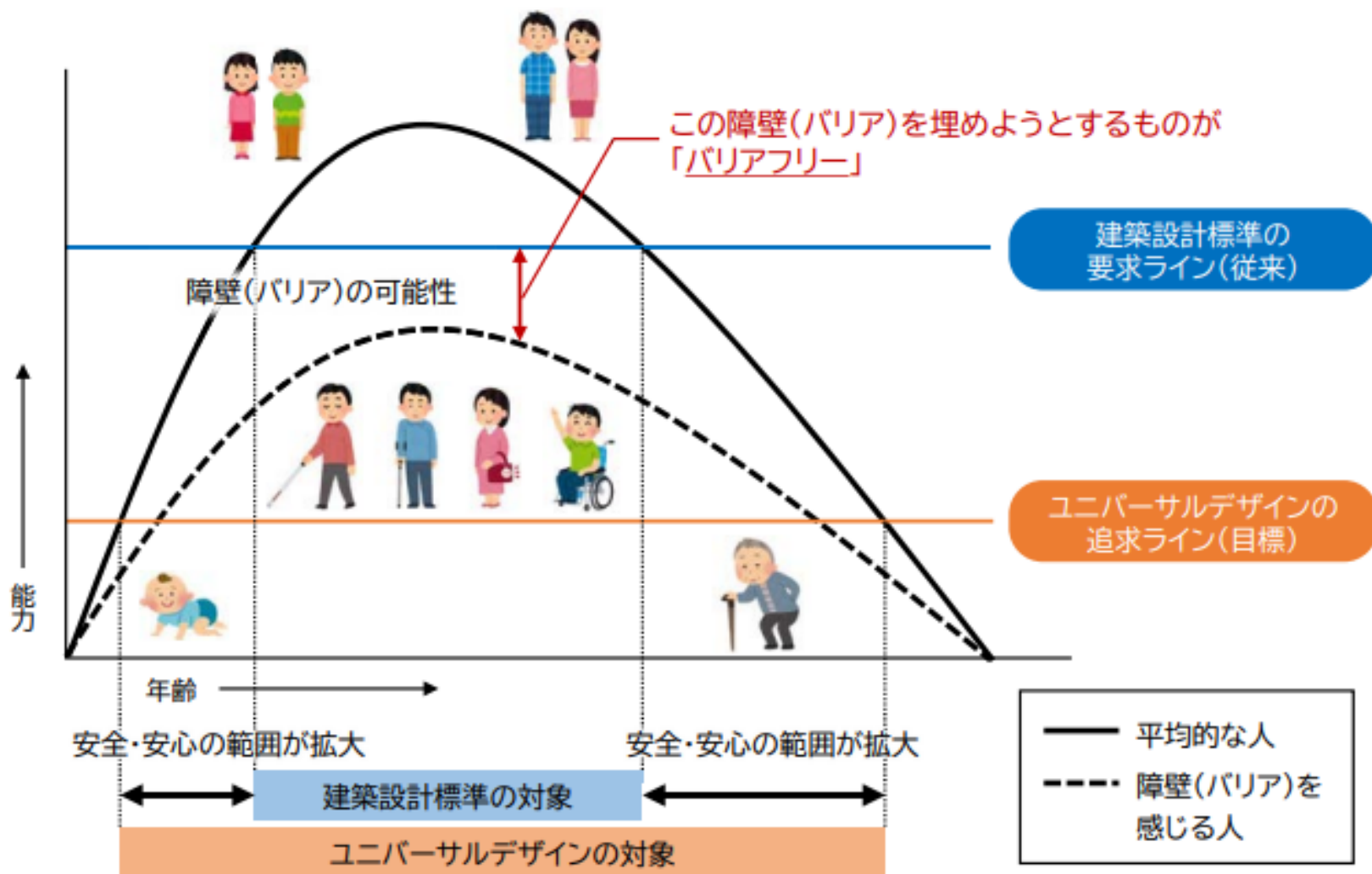


利用属性：合理的配慮の考え方に基づき、誰もが利用できる場づくりを進めることが重要

- ① 肢体不自由 ② 視覚障害 ③ 聴覚障害 ④ 内部障害 ⑤ 知的障害 ⑥ 精神障害 ⑦ 発達障害
- ⑧ 高齢者 ⑨ 子育て親世代 ⑩ 女性 ⑪ 子ども ⑫ 外国人 ⑬ LGBTQ+ ⑭ 上記以外の属性

※配慮が分かりやすいように①～⑦の利用属性を「障害者」、⑧～⑭を「健常者」と定義し記載しています

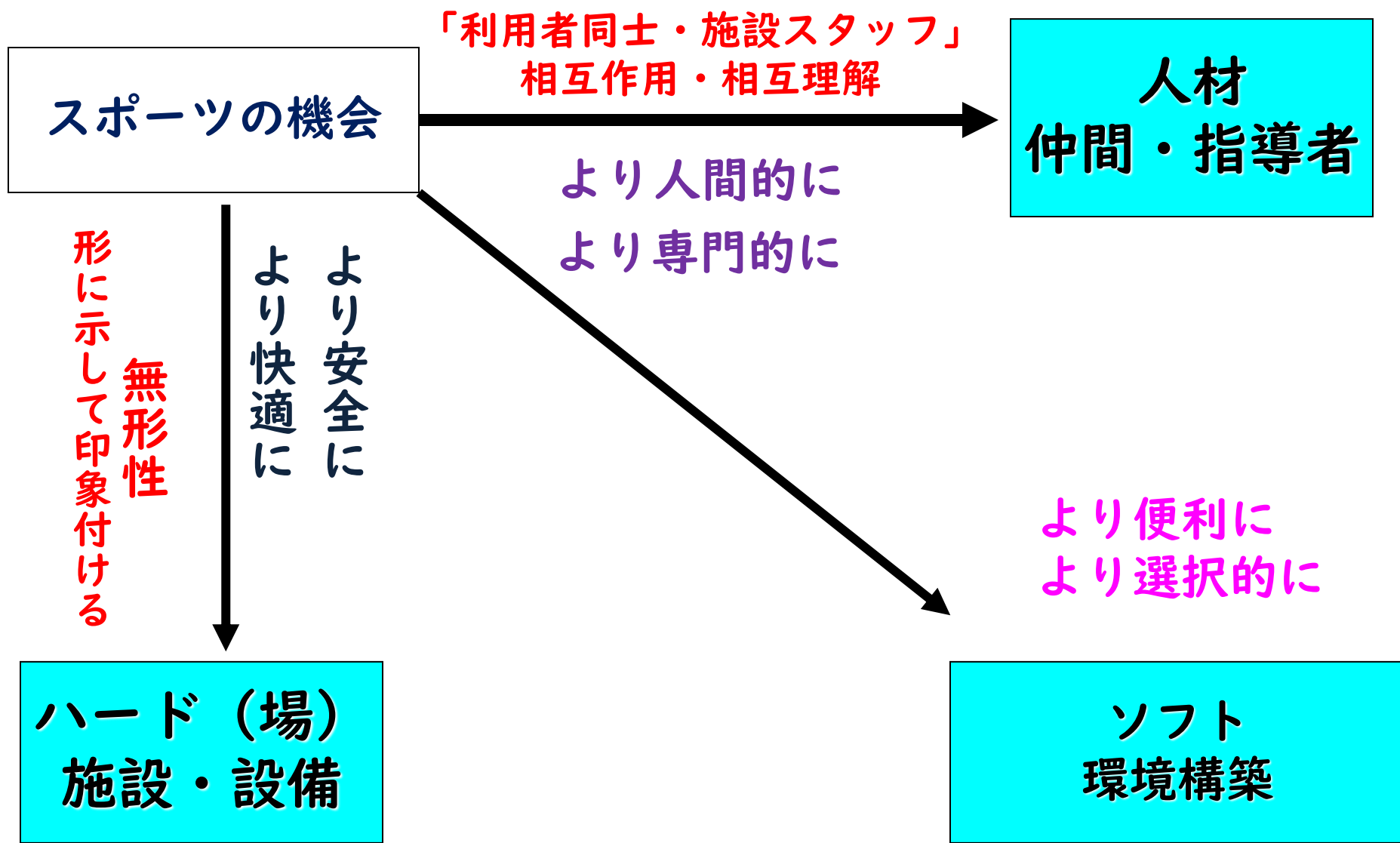
# ユニバーサルデザイン (UD) の考え方



(出典)ふくしま公共施設等ユニバーサルデザイン指針(福島県)を用いて作成

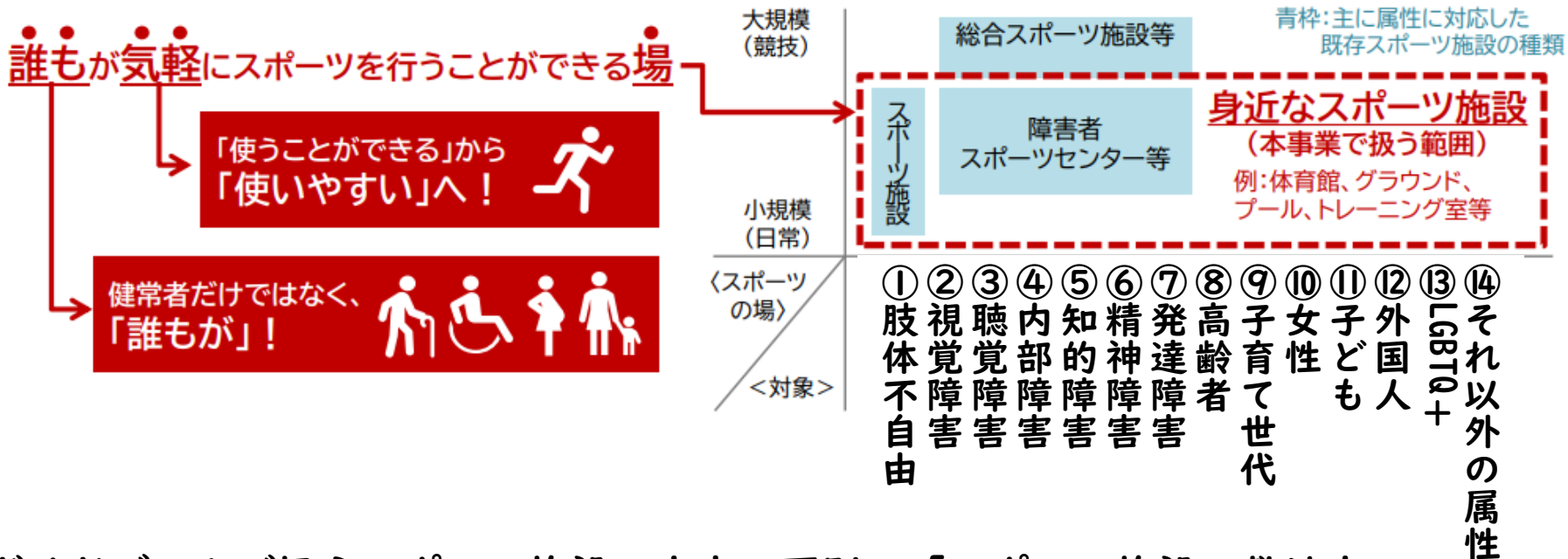
# UD化を踏まえたスポーツの「機会創出」の捉え方

山下 (2006) 金山 (2010) を参考に作成

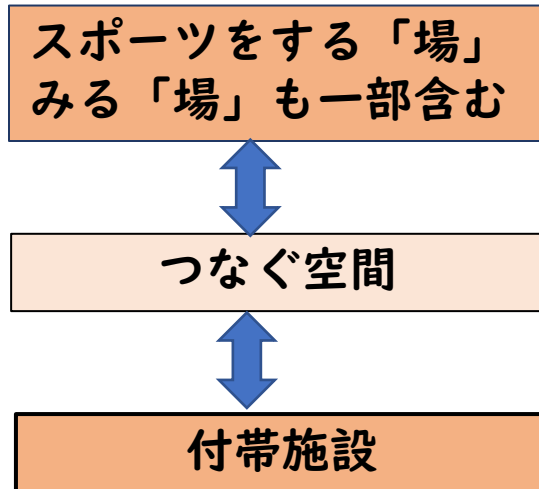




# スポーツ施設におけるユニバーサルデザイン（UD）化推進事業



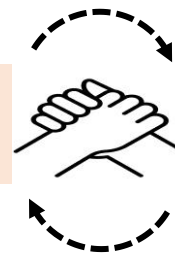
ガイドブックで扱うスポーツ施設・内容の原則：「スポーツ施設の敷地内」





□ ユニバーサルデザイン化の推進に向け、  
計画から運営、改修までのフェーズ

設置者  
地方自治体

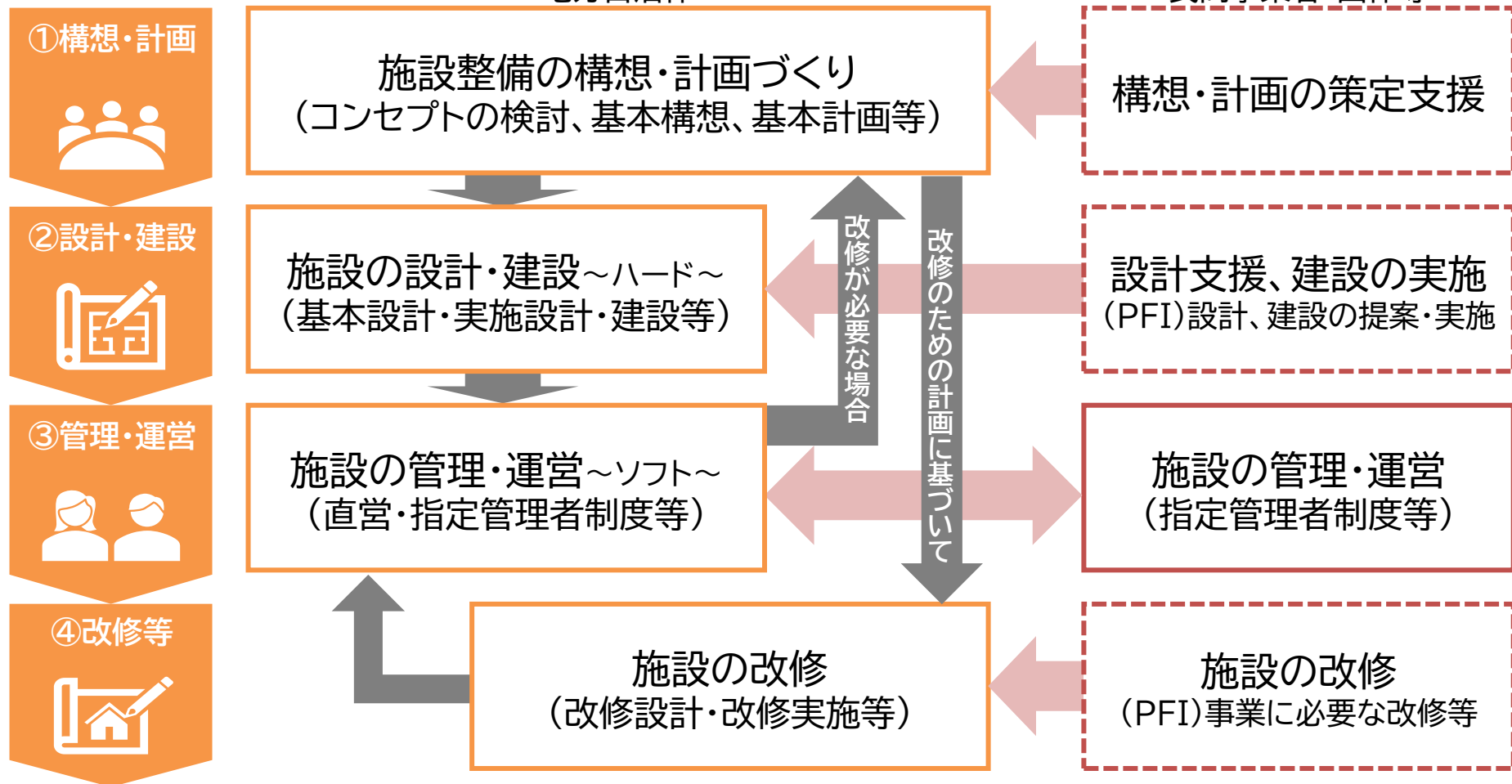


施設  
管理者

スポーツ施設を担う両者が連携した取組を推進

<地方自治体>

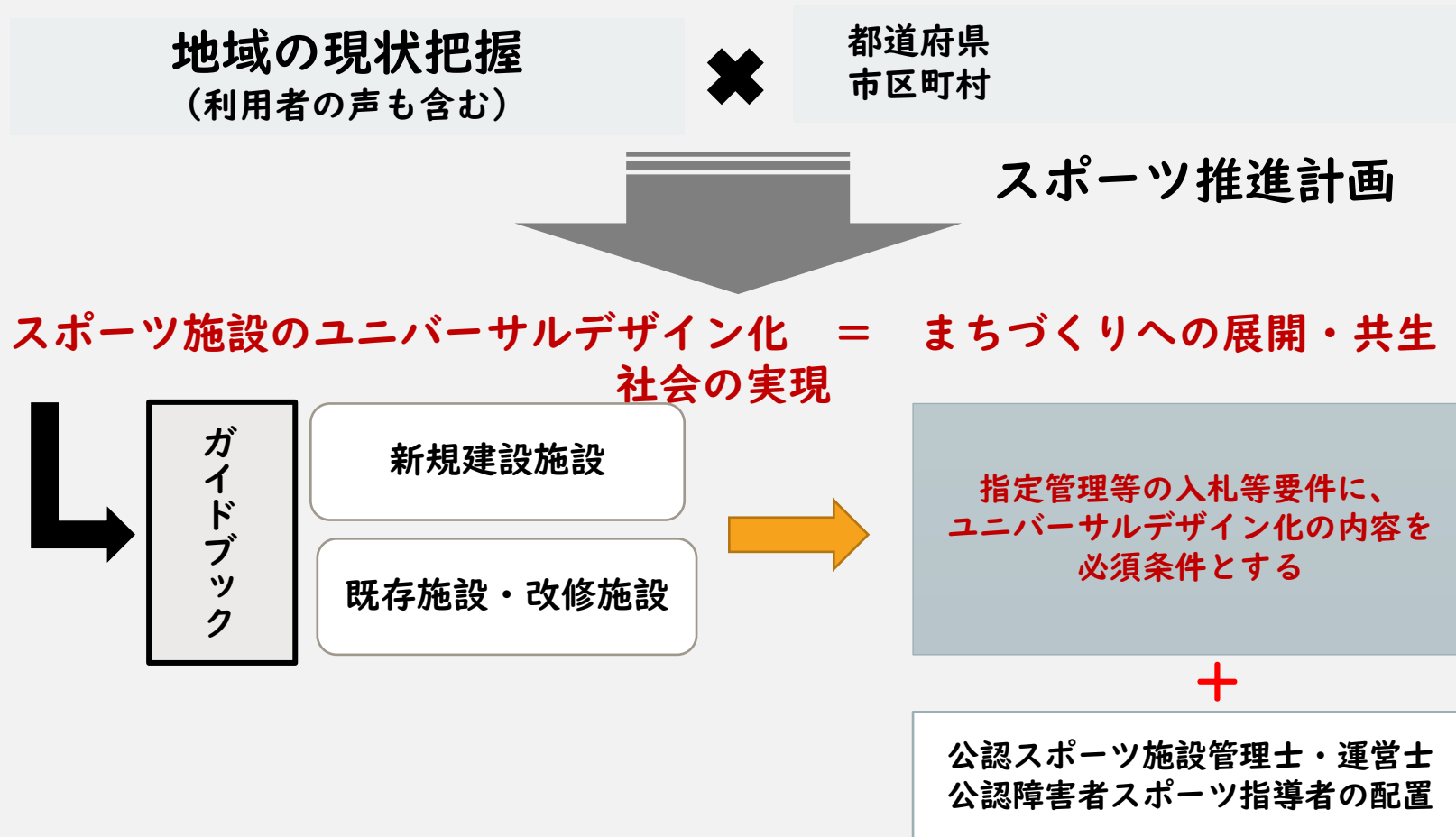
<民間事業者・団体等>



ユニバーサルデザイン化の趣旨・目的等への理解  
そして、関係者と利用者が協力・連携して取り組む体制の構築

# 活用例：設置者（地方自治体）に向けて

現状把握とスポーツ推進計画との関連性



ユニバーサルデザイン化がもたらす未来

# ユニバーサルデザイン7原則+3

## なんのために

三菱電機株式会社デザイン研究所(2001),こんなデザインが使いやすさを生む :商品開発のためのユーザビリティ

- 連続性に配慮する
- 快適性を確保する
- 高次の心地よさをもつ



「誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり」

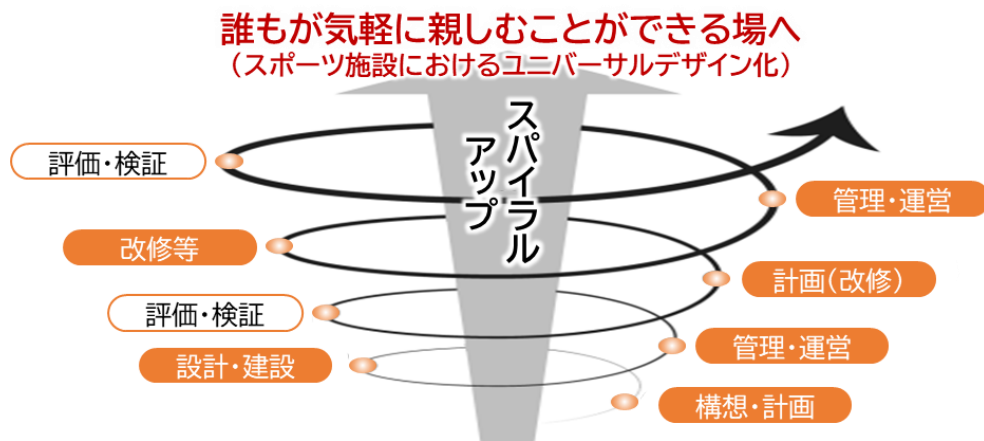


「文化としてのスポーツの価値の共有」

# ユニバーサルデザイン化がもたらす未来 スポーツを切り口とした 課題の表出化

- **スポーツ施設のUD化**
- さまざまな人がスポーツの「場」を共有することで社会参加できるようになる。
- よりいっそう社会的な課題に出会う機会が増える。
- 「**スポーツを通じた共生社会の実現**」を目指す過程を支援する装置の一つである。

日頃からスポーツ施設の現状を把握し、その対応策としての創意工夫や取組の検証、見直し・改善による**スパイラルアップ**が求められる。





みんなにとって使いやすい!

# スポーツ施設の ユニバーサル デザイン化

ガイドブック

ご清聴ありがとうございました